

荷重受梁

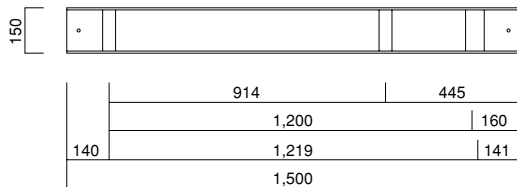
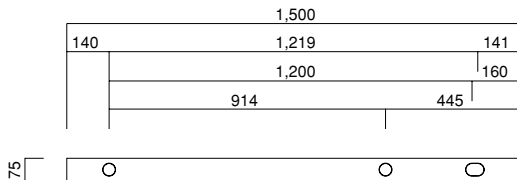
特長

- 1) 荷重受梁はH型鋼を使用していますので安定して均一な支持力が得られます。
- 2) 支持点はH型鋼の3箇所、鋼管を使用し枠幅914、1200、1219使用できます。
- 3) 建枠のピンを所定の位置に合わせ荷重受梁を落とし込むだけでセットができます。

荷重受梁 RS-1500…21.5kg



形状

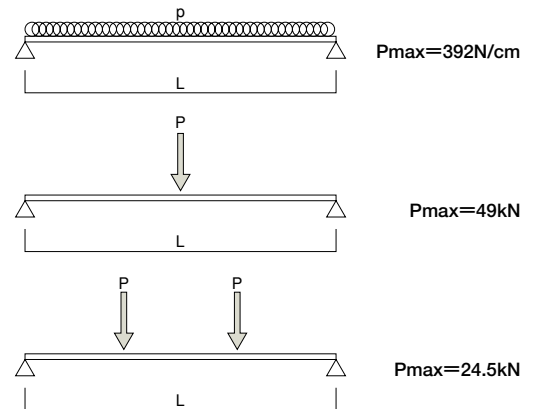


■荷重受梁 H150×75×5×7 (SS34)

断面積	A=17.85cm ²
断面係数	Zx=88.8cm ³
断面2次モーメント	Ix=666cm ⁴
単位重量	γ=137N/m
許容曲応力度	fb=13.7kN/cm ²
許容せん断応力度	fs=7.84kN/cm ²

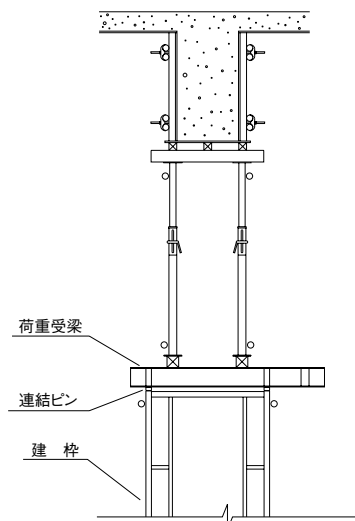
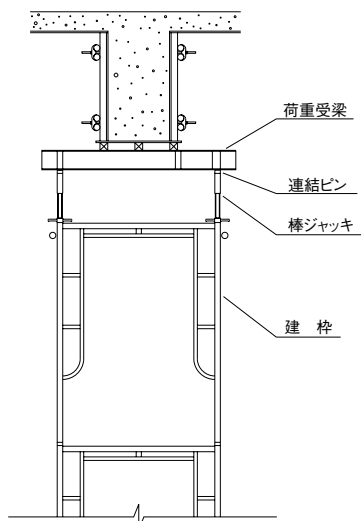


許容積載荷重



*荷重受梁は十分な強度をもっておりますので、積載荷重は建枠の強度に基づく脚柱の強度によって決まります。

使用例



■固定荷重

	荷重 (kN/m ²)	備考
普通コンクリート	(23.5/m ³) × (部材厚)	
軽量コンクリート	(19.6/m ³) × (部材厚)	軽量1種
軽量コンクリート	(17.6/m ³) × (部材厚)	軽量2種
型 枠	0.39	建築学会 (JAS5)

■水平方向荷重

労働省産業安全 研究所	コンクリート 標準示法書 土木学会	コンクリート道路橋 施工便覧 日本道路協会	市街地土木工事 公衆災害防止対策要領 建設省
型枠ほぼ水平の場合 ・枠組 鉛直荷重の2.5% ・枠組以外 鉛直荷重の5.0% 型枠の勾配 (tanθ) が2.5% 及び5.0%を超える場合 鉛直荷重 × cosθ · sinθ	死荷重の2%以上又は支保工 上端の単位長さ当りが 1.47kN/mのうちいずれか 大きい方	鉛直荷重の 5.0% 非常に高い支保工 風荷重 一 般 0.39kN/m ² 台風考慮 1.47kN/m ² 非常に長期間使用する場合 設計震度 本体構造物の設計震 度の1/2	鉛直荷重の 5.0%

■作業・衝撃荷重

労働安全 衛生規則 労基法	労働省産業安全 研究所	型枠の設計 施工指針案 日本建築学会	仮設建造物の 計画と施工 土木学会	コンクリート 標準示法書 土木学会	コンクリート道路橋 施工便覧 日本道路協会	土木設計数量 算出要領 日本道路公団	型枠のRecomm- ended practice ACI
1.47kN/m ²	A ≤ 1m ² 3.5kN/m ² 1m ² < A < 5m ² 4.0-0.5 · A kN A > 5m ² 1.5kN/m ² A:部材の負担領域	通常のポンプ工法 1.47kN/m ² 特殊な打込工法 1.47kN/m ² 以上	1.47~3.43kN/m ²	2.45kN/m ²	3.43kN/m ²	(作業荷重) 3.92kN/m ² (衝撃荷重) V · 9.8/8N/m ² V:コンクリート体積	2.39kN/m ²

